

## IASB Update 2017 年 11 月

IASB Update は、国際会計基準審議会（審議会）の予備的決定を示している。IFRS®基準、修正及び IFRIC®解釈指針に関する審議会の最終的な決定は、IFRS 財団及び IFRS 解釈指針委員会「デュー・プロセス・ハンドブック」に示されているとおり正式に書面投票が行われる。

審議会は 2017 年 11 月 14 日（火）に英国ロンドンの IFRS 財団の事務所で公開の会議を開催した。

トピックは、議論した順に、以下のとおりであった。

- [動的リスク管理](#)
- [IFRS 第 8 号の改善](#)
- [基本財務諸表](#)
- [より幅広い企業報告](#)

### 動的リスク管理（アジェンダ・ペーパー4）

審議会は 2017 年 11 月 14 日に会合し、動的リスク管理をより適切に財務報告に反映する会計モデルについての 2 つのアプローチ案について議論した。

具体的には、審議会は当該モデルの目的及びモデルが次のいずれに従うべきかについて議論した。

- キャッシュ・フロー・ヘッジの仕組み
- 公正価値ヘッジの仕組み

審議会は、スタッフがキャッシュ・フロー・ヘッジの仕組みに基づいたモデルをさらに開発することに焦点を当てるべきであることに暫定的に同意した。

14 名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、反対はなかった。

#### 今後のステップ

スタッフは次回のボード会議でプロジェクト計画を提示する。

### IFRS 第 8 号「事業セグメント」の改善（アジェンダ・ペーパー27）

審議会は 2017 年 11 月 14 日に会合し、公開草案「IFRS 第 8 号『事業セグメント』の改善」（IFRS 第 8 号及び IAS 第 34 号の修正案）に対するコメントの要約について議論した。

この提案は、IFRS 第 8 号の適用後レビューから生じている。提案は 2017 年 3 月に公表され、2017 年 7 月にコメントが締め切られた。

#### 関連情報

##### 今後の IASB 会議：

2017 年 12 月 11 – 15 日

2018 年 1 月 22 – 26 日

2018 年 2 月 19 – 23 日

##### IASB Update ニュース レターのアーカイブ

過去の IASB Update は  
[こちら](#)

##### 要約のポッドキャスト

過去の IASB ボード会議  
の要約のオーディオ（ポ  
ッドキャスト）は [こちら](#)

審議会は何も決定を求められなかった。

## 今後のステップ

審議会はこのプロジェクトに対するアプローチについて今後の会議で議論する。

## 基本財務諸表（アジェンダ・ペーパー21）

審議会は2017年11月14日に会合し、基本財務諸表プロジェクトについて議論した。財務業績の計算書の改善に関しての2017年9月のボード会議での議論を再開するものであった。

### 財務業績の計算書における投資カテゴリーの表示（アジェンダ・ペーパー21A）

審議会は次のことを暫定的に決定した。

- a. 「投資」カテゴリーの名称を「投資から生じる収益・費用」に改める。12名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、1名が反対した。1名は欠席であった。
- b. 「投資から生じる収益・費用」を、原則主義のアプローチを用いて、「個別に、かつ企業が保有しているその他の資源からおおむね独立して、企業に対してリターンを生み出す資産から生じる収益・費用」と定義する。11名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、3名が反対した。
- c. 非金融の企業において、通常は「投資」として扱われるであろういくつかの項目のリストと、通常は「投資」として扱われないであろういくつかの項目のリストを示す。13名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、1名が反対した。
- d. 「投資から生じる収益・費用」カテゴリーの前の小計の名称を「営業利益」としない。10名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、4名が反対した。

審議会は、持分法で会計処理される関連会社及び共同支配企業の純損益に対する持分の表示については、決定に至らなかった。したがって、審議会は、本プロジェクトの最初のデュー・プロセス文書に、考えられる異なるアプローチの議論を含めるようスタッフに指示した。その議論は、特に、次の2つのアプローチを検討することになる。

- a. 持分法で会計処理されるすべての関連会社及び共同支配企業の純損益に対する持分を、単一の区分に含める。
- b. 不可分な関連会社又は共同支配企業の純損益に対する持分は、「投資から生じる収益・費用」カテゴリーの上に含め、不可分ではない関連会社又は共同支配企業の純損益に対する持分は、「投資から生じる収益・費用」カテゴリーに含める。

### 財務収益・費用の定義（アジェンダ・ペーパー21B）

審議会は次のことを暫定的に決定した。

- a. 「財務収益・費用」の定義において、「現金及び現金同等物」を現金及び余剰現金の一時的投資に代わる用語として使用する。10名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、4名が反対した。
- b. 「財務収益・費用」が次の5つの表示科目で構成されることを要求する。
  - i. 「実効金利法で計算した現金及び現金同等物から生じた金利収益」
  - ii. 「現金、現金同等物及び財務活動から生じた他の収益」
  - iii. 「財務活動から生じた費用」
  - iv. 「その他の財務収益」
  - v. 「その他の財務費用」

12名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、2名が反対した。一部の審議会メンバーは、これらの表示科目についていくつかの文言作成上の提案をした。審議会は、重要性があれば、現金及び現金同等物の減損について独立の表示科目が必要となる可能性があることにも留意した。

- c. IAS第7号「キャッシュ・フロー計算書」における「財務活動」の現行の記述を、財務活動は次のことを伴う旨を示すことによって明確化する。
- i. 財務提供者からの資源の受領又は使用（あるいは信用の提供）
  - ii. 当該資源が財務提供者に返還されるであろうという予想
  - iii. 金融の提供者が財務チャージの支払を通じて適切に補償を受けるであろうという予想。財務チャージは信用の金額と期間の両方に応じて決まる。

14名の審議会メンバー全員がこの決定に賛成した。一部の審議会メンバーが文言作成上の提案をした。

### その他の包括利益（OCI）を伝達するためのより適切な方法（アジェンダ・ペーパー21C）

審議会は、財務業績の計算書におけるOCIセクションの2つのカテゴリーの名称を次のように改めることを暫定的に決定した。

- a. 「純損益の外で報告される再測定」（現在は、「その後に純損益に振り替えられることのないOCI項目」）
- b. 「将来の純損益に含められる収益及び費用」（現在は、「その後に純損益に振り替えられることとなるOCI項目」）

14名の審議会メンバーのうち8名がこの決定に賛成し、6名が反対した。

審議会は、財務業績の計算書のOCIセクションの2つのカテゴリーの間に「純損益の外で報告される再測定後の利益」と呼ばれる新しい小計を導入しないことを暫定的に決定した。14名の審議会メンバーのうち12名がこの決定に賛成し、2名が反対した。

審議会は次のことを暫定的に決定した。

- a. スタッフは、OCIについてIAS第1号「財務諸表の表示」における下記の表示の選択肢を削除する要望があるのかどうかを検討すべきである。
  - i. OCIの項目を、関連する税効果の控除後、又は関連する税効果の控除前のいずれかで表示する選択肢（IAS第1号の第91項）
  - ii. 組替調整額を財務業績の計算書又は注記に表示する選択肢（IAS第1号の第94項）

審議会メンバー全員がこの決定に賛成した。

- b. 企業のためのその他の包括利益の表示についての独立のガイダンス又は教育マテリアルは開発しないが、より適切な集約・分解及び追加的な最小限の表示科目についての提案を開発する際に、純損益とOCIの両方を考慮する。14名の審議会メンバーのうち13名がこの決定に賛成し、1名は棄権した。
- c. 財務諸表利用者が会社の分析においてOCIの項目を考慮することが重要である理由を示すケーススタディという形式での、投資者のための教育マテリアルは開発しない。審議会メンバー全員がこの決定に賛成した。

### 今後のステップ

審議会は今後の会議で議論を継続する。

## より幅広い企業報告（アジェンダ・ペーパー28）

審議会は2017年11月14日に会合し、次のことについて議論した。

- a. より幅広い企業報告における動向についてのアップデート
- b. 2010年公表のIFRS実務記述書「経営者による説明」を更新するプロジェクトをアジェンダに追加する提案

#### **動向についてのアップデート（アジェンダ・ペーパー28B）**

審議会は、より幅広い企業報告における2017年3月以降の動向についてのアップデートを受けた。

審議会は何も決定を求められなかった。

#### **より幅広い企業報告への当財団の関与の範囲（アジェンダ・ペーパー28B）**

審議会は、より幅広い企業報告への当財団の関与は、「財務報告に関する概念フレームワーク」で定義されている現在の及び潜在的な投資者、融資者及び他の債権者のニーズを満たすための他の財務情報の提供に限定すべきであると決定した。

12名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、2名が反対した。

#### **経営者による説明の実務記述書を改訂し更新するプロジェクトを追加する提案**

審議会は、2010年公表のIFRS実務記述書「経営者による説明」を改訂し更新するプロジェクトを基準設定アジェンダに追加することを決定した。

12名の審議会メンバーがこの決定に賛成し、2名が反対した。

#### **今後のステップ**

今後の会議で、審議会は、経営者による説明に関するプロジェクトの範囲及びその進め方について議論する。

Note that the information published in this newsletter originates from various sources and is accurate to the best of our knowledge. However, the Board, the IFRS Foundation, the authors and the publishers do not accept responsibility for any loss caused by acting in reliance on the material in this publication, whether such loss is caused by negligence or otherwise.

本ニュースレターで公表される情報は、さまざまな情報源から作成しており、我々の知識の限りにおいて正確なものである。当審議会、IFRS財団、執筆者及び発行者は、本出版物の内容を信頼して行為を行うことにより生じる損失については、当該損失が過失により生じたものであれ他の原因により生じたものであれ責任を負わない。

Copyright © IFRS Foundation

コピーライト © IFRS 財団

ISSN 1474-2675